

たいがいの幼稚園で、秋になると運動会が行なわれる。運動会は子どもたちの気分をひきたて、生活の変化を与えて、子どもたちにはたのしい経験のはずである。しかし、運動会の前、二、三週間は、遊戯の準備、整列のけいこなどでいそがしく、子どもたちにとっては十分に満足してあそべない、先生から叱られる機会が多くなるなど、子どもの生活の不満が出やすくなるのも事実であろう。運動会の練習がはじまると、幼稚園にいきたくなくなる子どもが案外多いのではないだろうか。練習にあげられた日には、子どもは家に帰ってから荒れることが多いのではないだろうか。

運動会のもち方は、これからもっと研究を要する問題であろう。幼稚園の秋の生活にとっては大きな部分を占める活動である。運動会を、ほんとうに、幼児に役立つものとすることを考えたい。

## 運動会と子どもたちの生活



越 野 梅 香

晴天の日、戸外でひらかれる運動会は、見るだけでも生命ノ

の充溢を感じるものである。まして、こどもにとっては、たと

え、それが雨天で、室内で行なわれたとしても、大きな楽しみ

であると思う。

もし、それがこどもにとって、ほんの一部のこどもにとって

でも、苦痛であり、無関心であるとしたら、それは、

・運動会のもち方に問題がある

・園生活自体に問題がある

と、思わなければならない。

計画的で、無理のない集団生活の中で、身につけた社会性、運動能力の芽生えは、地域社会がこぞって体育に関心を示す秋になって、幼稚園の運動会にはつきり見られる。

園児がする運動会は、入園以来の園生活が、順調に発展していなければならない。

・曲に合わせて歩いたり、走ったりする。

・みんなといっしょに、並んで歩いたり、走ったりする。

・力いっぱい最後までする。

・きまりを守ってする。

・ともだちと力を合わせてする。

・ともだちのすることを見て応援する。

など、身につけていければ種目は何であっても楽しくできる。しかも能力いっぱい頑張って満足感を味わうことができる。

たとえ、身につけていなくても、よい方向にむいていければ、一つの抵抗に挑んだファイトは、運動会後の生活に、自信をつけることになる。

「幼き日の思い出」などという感傷でなく、園児が、大集団の中で総合的にしかも一つの制約の中で、自分の能力を十分に

発揮して、次の発達段階へのステップになるという意味で、運動会は必要であると思う。

①プログラム作成にあたって、

・種目の数は、全体の人数によるけれども、全部終了するに要する時間は、一時間半が最大限である。

・種目の中程のあたりで、退場につづいて、便所へ誘導することができるよう、出場順を考えておく。大きい行事の際は、目が届きかねるので絶対個人行動をとらないよう安全の上からもぜひ考えておくこと。

・大人が見て、きれいだとか、かわいい、とか思ってもそれが、ごたごたと小細工がしてあるとこどもにとっては煩わしい。

時によると、力いっぱいする、という大切なねらいがはずれてしまい、困った、面倒だった、悲しかったなどいやな印象を残すことになる。やはり鉢巻とか運動帽は、やろうという気分を盛り上げるし、気にならないものである。

・保護者と園児のコンビの種目が必ず用意され、ほほえましい愛情の場面が展開されるが、一つは親子とか肉親であっても、もう一つともだちのうちの人、よその人とのコンビを持ちたい。

平素、わが子だけに関心を持つ保護者に、よそのこどもとの交流、交歓の機会を持たせることは、双方に新しい視野と世界を見出させることになると思う。

保護者の種目は、競技でもダンスでも、前もって説明書を出して、当日簡単な説明のできるものがよい。園児とのコンビは園児に、リードさせる位がよい。

保護者が、何度も園へ足を運んで覚えるより参観日の時など少しずつなれておく程度のものでないと、運動会に手をとられて教師がオーバーワークになり、「肝心の運動会当日にこやか

な、はつらつとした動きができなくなる。  
 ・進行は、教師が一人専属で、初めから終りまでを運営する。  
 他の係は保護者をあてる。

園児係（担任の補助と連絡、突発事故の要員として園児席にいる。）

用具係（あらかじめ、プログラムにより、種目と用具の出し入れの関連をのみこんで、手分けをしておく。）

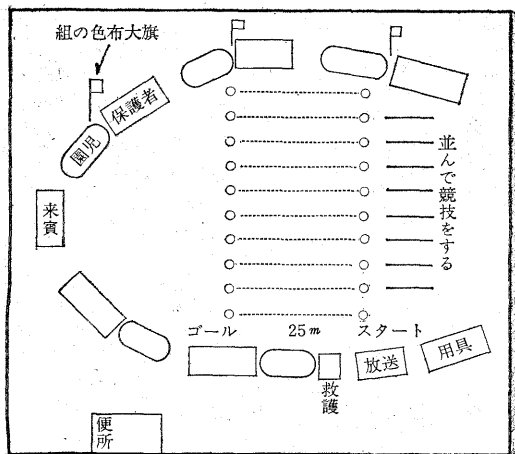
会場係（当日、早く出て会場設営、終了後は係全員で片づけをする時の指揮をする。）

救護係（養護教諭のない所はできれば心得のある保護者を依頼する。）

出発、決勝係は必要に応じて依頼。

担任は園児につく。

進行係は、プログラムを熟知し、必要な曲、合図、説明に責任を持つ。



②会場は右図のようにしてみた。

ともだちと家族と来賓と先生が、一つの輪を作っている。これは、入退場の時間をとらず、よく見える。

競技や演技のためのラインをたくさんひくことは邪魔になるので、すべての競技は図の形でできるようにした。折り返しの場合は、半紙大の布旗をとりつけた台を目標に並べて競技をする。

また、円形になってする時は、中心部へ旗台をおいて、その

また、各係の打合わせをよくしておく。進行にあたっては、会場をよく見ながら、要所を誘導して運動会のふんい気を、十分に

まわりに円をつくるので、ラインはいらぬ。

### ③こどもの経験

・大集団の中で動く

ともだち、家族、先生と共に、広い場所で動くことは、他の行事ではできないことである。みんながいっしょにこれから運動会をするのだという意識を、こどもにも、大人にも持たせるために、開会を次のようにしてみた。

「さあこれから運動会です。みんな立ち上がって二人組になり、音楽に合わせて、並んで歩きましょう」と放送して大行進をはじめ。すぐその場から二人組になって園児も家族も来賓も、座席に一人も残らないように行進する。大きな輪になったら、セブンスステップのような簡単なフォークダンスを、説明しながらする。園児はこの大集団の中で得意になってダンスをする。

・意識的に動く

よく知っていることを皆の前でやるのだ、次は自分がする番だ、今やるのだ、とか、ともだちといっしょにする、家族とすることをはっきり意識して、元氣よくやろう、うまくやろうと意欲をもつことが必要である。いつの場合でも、教師の指示と

強制で仕方なしに動くのでは、教師は命令と禁止のことばの連続で、聞く者は、疲労感だけが残ることになる。

玉いれ

1 用具係が籠をもって定位置に立つ。

2 該当の組は男女別縦隊に並んで、男子は白玉、女子は赤玉を一つずつ持つ。

3 かけ足で、籠のまわりに男女別の輪を作る。

4 合図によって、持っている玉を籠に投げられる。

玉をばらまいておいて、合図によって拾ってから投げられるの、グループ同士のとりあいになって、紅白の競争意識はなくなってしまふ。初めの動きが、ワーツと投げ入れることにより、ねらいへむかっただけの意欲が出てくる。

5 最後に比べる時は、どちらが多く入ったかを比べるのだから、まず一瞬考えさせる。各自の考えを確めるために数えていって、残った方が勝である。必要があれば残りの玉は、その差でなく数量だけで十分である。

尚玉入れの場合、組別よりも解体して男女別競争の方が、女子が一人一人責任をもったこと、男子のファイトで自主的、主体的に動き教育的であった。

・抵抗をのりこえる

発達段階にてらして、複雑はんざなこと、体育的でない抵抗は、計画の時取り除いてあるから、ここでは純粋に精神的、身体的な能力に対する抵抗である。

玉ころがしで、玉が思う方向へいかない時、途中でやめたくなる。投げやりになるのを、何とかして約束どおりころがしていつて、次の人に渡そうとする努力。

力いっぱい走る努力、運動会という大集団の場で幼児なりに頑張つて、思わず自分の力を出し切った時、満足感が自信をつけるのである。

平素の生活において車で通園し、狭い所で、小さな動きだけをしているとしたら、その子はいつたい、どこで体力をつけるのだろう。この時期に、確実に歩く子、歩幅を大きくも小さくも自由にできる子、軽く歩く子はつまずくことが少ない。教師が共に歩く時、こどもに歩調を合わせないで教師自身、正しい姿勢で、さっさと歩く。歩幅の加減はあつても、歩調の加減はいらぬ。歩く時、堂々と目標に向つて進む。その気概と態度が、こどもにも必要である。

走ることも同じ、教師はいっしょうけんめい走る。待たないで、最後まで走る。

かけっこは、妥協でなく、手をつかい、足をつかい全身で走ることが段々とわかつてくる。能力のある子はこの時、教師に

迫つて目をみはらせることがある。可能性への期待は、更に努力へつながらり、その迫力が生活に弾力をもたせる。

たくましく生きる力を持つ子は、すべてにおいて限界まで努力しようとする子である。引っこみ思案でない。

食わず嫌いでない。

依頼心が少ない。

中途半端でないから一の制約の中でも十分あそび、十分たのしみ、本気で考える。

こういう方向への生活の積み上げは、運動会という総合的な場面において発揮される。

#### ④失敗例

こう考えてくると、幼稚園の運動会が、単にショーのようなお祭りさわざぎだけでは、教育的でないことがわかる。

一つの失敗例とし「お月見」がある。

シーズンでもあるので、玉ころがしがすんだあとの玉を、ベニヤ板一枚分の製作台の上におき、その前にお供物をする競技である。

1、玉入れの玉をおだんごにして、八人ずつが各組の月の前の盆にのせる。

2、次に実物のすすきを束ねたのをもつた八人ずつが花びんにさす。

3、そして次に、ペーブサートの兎やさるなどの動物を、砂バケツにさす。

最後まで全部供えた組が勝であるという仕組みだったけれど、供物を確実におくことに重点をおいたため、全員が手にもってリレーにならない。しかたなく一列毎に合図をしてスタートさせたけれど、まことに気のぬけた競技になってしまった。思いつきと、でき上がりは、よかったが、種目の研究不足と、選択を誤った大きなものであった。

また、三角帽は、かわいいのでよく使われるが動きの激しいもの、場所や物をくぐる時は不向きである。

#### ⑤ 服装

教師の方は割合、場に合っているが、園児も、上衣をつけるなら、下着をへらして、手足が動きやすいようにする。

参会の保護者も外出着をさけて、少々汚れてもよい、動きやすい服装になるよう啓蒙する。

#### ⑥ 片づけ

以上のようにしていくと、運動会途中で、キャラメルなどの間食をする園児はいない。しかし、時には心得ちがいの保護者もあって弟妹用のおやつを渡すことがある。

前日までの話しあいにおいて、それは悪いことであることをはっきり認識させておく。終了後、立つ時、身のまわりをよく

みて、ちりがあれば拾って、あとの掃除が早くできるようにしておく。

便所に行つて、手を洗つて部屋に入り参加賞を貰う。忘れ物をしないようによく見る。興奮しているとよく忘れ物をする。

あいさつをして保護者といっしょに帰る。

無事に園児を帰したら、教師は備品を元の場所におさめる。運動会の準備と反省を、プログラムの該当場所に記入し保存しておく。

これで運動会は終了したのである。

次の日から、園児がどういう生活を展開するか、予想と期待と観察を有意義にすることによって、次の発展と積み上げが確実になってくる。

あらゆる、可能性をもった園児が一つ一つの段階を経て、すくすくと成長することを願う。

(松江市立乃木幼稚園)